

大好き！絵本

初瀬 恵美

ご入園 ご進級 おめでとうございます



今年の春は、寒暖の差が激しかったり、例年になく雨が多いですね。ちょっぴり残念ですが、子どもたちは、そんな天気におかまいなく、雨が降らない限り外で元気に遊んでいます。そして、少しポカポカ陽気になると、園庭で虫探しが始まります。きつと、体で季節を感じながら遊んでいるからわかるんでしょうね。

今月は、そんな子どもたちが大好きな身近な虫がでてくる絵本をご紹介します。『てん てん てん』は、福音館書店が出している0・1・2歳のお子さん向けの絵本シリーズの一冊です。色彩も、言葉のリズムもとても優しい絵本です。

まず表紙を開くと左のページが白ベース。右のページが赤ベースになっています。そして、左から右へリズムを描くように、こげ茶色の点が描かれています。文章は「てん てん てん」とあるのみです。

このシンプルさがとてもいいのです。「てん てん てん」その響きと、はっきりとした配色は、子どもをひきつける力を持っています。また言葉が出はじめの頃の子どもたちと一緒に読んでみると、こげ茶色の点を指さしながら「てん てん…」と口ずさむことがよくあります。それほど、視覚的に「てん」が飛び込んできたり、「てん」という響きが耳に残るからかな…と思います。次のページをめくると白地に赤いテントウムシが一匹。そして「てんとうむし。」と言。このページもとってもシンプルです。「てんとうむし」という言葉と、絵が一致しやすい構成になっています。テントウムシを知っている子はページをめくったとたん「テンテン！」「テントウムシ」と大喜びする子がとっても多いです。それは、「これ、知ってる！テントウムシだ。見たことあるよ！ほら、テントウムシだよ見て！」といったかのような様子。記憶と一致したことを声色をあげ、にこやかに喜ぶ子どもたちは、とってもかわいいです。

生まれてわずか1～2年の子どもたちにとって、「知っている」ということは、人に伝えたい喜びなのです。そんな喜びが共有できる、とっても楽しい絵本です。

ほかに「かたつむり」「きいろい ちょうちょ」「ほたる」「かまきり」が載っています。年齢によっては、まだ知らない生き物もいるかもしれませんが、「知っている」のほかに、知らないことは「知りたい」「なに？」という知的好奇心も芽生えている子どもたちにも、絵本に登場する虫たちは、興味深いことなのです。

そして、絵本を通して知った生き物と実際にであったとき、また感動が生まれたりもします。シンプルですが、小さな子どもたちの心をしっかりとらえ、読んで大人も一緒に楽しませてくれる絵本です。是非、ご覧になられてみてください。

